

H.27
(2015年)

八月（今月の掲示板）

真言宗大谷派・願成寺
しんしゅうおおたには がんじょうじ

欲が一つ叶えば、また二つ、三つ四つ五つ、六つかしの世や

人間の五官（眼・耳・鼻・舌・身）に関係する五欲に『食・睡眠・色（性）・名譽・財（産）欲』があります。欲求は、生きるのに必要な食事と睡眠で、欲望は『欲しがる心』です。『自分の思い通りになれば幸福』と思うが、お釈迦様は『人は皆、幸福を求めて生きているが、自分中心の幸福を求める限り悩みは尽きない』と言われ、『少欲知足』を欲を少なくし・足る（満足す）を知る』を説かれました。

親鸞聖人は『凡夫（人間）』というは、無明煩惱われらが身に満ち満ちて欲も多く・怒り・腹立ち・嫉み・妬む心多く、暇無くして、臨終の一念（死ぬ寸前）に至るまで止まらず・消えず・絶えず』と、『自分の心を示されました。

阿弥陀経に『青色の蓮から青い光・黄色黄光・赤色赤光・白色白光』とあり、「今ままの私で善い」ということです。『欲深く・悩み多い私（凡夫）を見捨てずに、必ず救うぞ』が、阿弥陀仏の本願です。本願を信じ・念佛申そうと思ひ立つ心が起ころる時、非常に樂（極樂）になるのです。

主な参考資料

(1) 西元宗助(著)『すでに道あり』、大和仏教文化センター、p.70~97(平成3年)。

(2) 入江健明(著)『わたしは念佛者』、探求社、p.7~28(平成8年)。

(3) 入江健明(著)『知っているつもり わが真宗』、探求社、p.31~39(平成9年)。

(4) 松井恵光(著)『三分間・法話集』、法藏館、p.37~39(2012年)。